

# がん登録部会からのお知らせ

国立がん研究センター  
がん対策情報センターがん登録センター  
東 尚弘  
thigashi@ncc.go.jp

## 報告事項

1. がん登録部会について  
– 令和2年6月16日に実施
2. 患者体験調査について  
– これまでの経過と今後の方向性
- <sup>追</sup>3. 今後のお願いの予定

# 1. がん登録部会

## 報告事項

- 全国がん登録関連
  - 全国がん登録2017年報告
  - 全国がん登録20条提供への院内体制
- 院内がん登録スケジュール
  - データ収集
  - 研修会のe-learning化とCBT

## 情報提供：院内がん登録カバー率 治療開始例2017年

4. 全国集計 報告書

報告年 (都道府県別 別)	資料 (カバー率)	集計対象施設 (付表1-6、付表7)			修正総数
		拠点病院(成人)	臨床研修院	任意参加病院	
2018年	3,238KB	32,717KB	20,798KB	5,677KB	150KB
2017年	5,268KB	134,354KB	92,054KB	31,109KB	175KB
2016年	7,259KB	113,310KB	126,218KB	-	176KB

表1 部位別罹患数に占める院内がん登録全国集計参加施設の登録割合（上皮内がん除く）

	部位	全国がん登録				院内がん登録	
		罹患数	MI比	DCI (%)	DC0 (%)	初回治療開始数	(%)
全部位	C00-C96	977,393	0.38	3.3	2.1	683,134	69.9
口腔・咽頭	C00-C14	22,034	0.34	1.5	1.1	18,195	82.6
食道	C15	25,483	0.45	1.8	1.1	20,662	81.1
胃	C16	129,476	0.35	2.6	1.6	91,713	70.8
大腸（結腸・直腸）	C18-C20	153,193	0.33	2.9	1.9	97,687	63.8
結腸	C18	101,952	0.35	3.5	2.2	64,514	63.3
直腸	C19-C20	51,241	0.30	1.9	1.3	33,173	64.7
肝および肝内胆管	C22	39,401	0.69	7.4	4.5	24,174	61.4
胆のう・胆管	C23-C24	22,664	0.80	7.4	4.2	14,799	65.3
膵臓	C25	40,981	0.84	6.1	3.2	27,268	66.5
喉頭	C32	5,247	0.17	1.0	0.8	4,588	87.4
肺	C33-C34	124,510	0.60	5.3	3.1	92,391	74.2
皮膚	C43-C44	23,723	0.07	0.5	0.4	19,287	81.3

全国

- 上皮内含：71.5%
- 含まない：69.9%

今後、施設別の値を公表していかどうかを検討する

表2 部位別罹患数に占める院内がん登録全国集計参加施設の登録割合（上皮内がん含）

	部位	全国がん登録			院内がん登録		
		罹患数	MI比	DCI (%)	DC0 (%)	初回治療開始数	(%)
全部位	C00-C96 D00-D09	1,093,280	0.34	3.0	1.8	781,245	71.5
食道	C15 D001	28,363	0.41	1.6	1.0	23,633	83.3
大腸（結腸・直腸）	C18-C20 D010-D012	195,188	0.26	2.3	1.5	133,331	68.3
結腸	C18 D010	132,303	0.27	2.7	1.7	91,139	68.9

次回実値を供覧して議論

# 議題

- 院内がん登録2016年以後の活用について
  - 現在は院内がん登録指針の4用法のみ
  - 独立行政法人個人情報保護法に従って整備の予定
  - まず都道府県（拠点）への提供を再開検討中
- 2012年症例5年生存率
  - UICCステージが変わるため2011年との合算ができない⇒ 施設別集計は行わない方針
  - 0期の集計値をどうするか⇒別途集計

## 院内がん登録

### 2017年症例のカバー率

- 県別、臓器別はがん情報サービスで公開
- 施設別を公開するか？
  - 中々イメージを付けづらい
  - 実際にデータを見てから検討

## 2. 患者体験調査について

H29年度	第3期がん対策推進基本計画開始 指標作成者意見交換会
H30年度	第2回患者体験調査の実施
H31年度	集計/解析/報告書作成
R2年度	10月14日 報告書を公表 ・ 都道府県毎結果の返却 ・ 協力施設へ施設毎結果の返却 11月7日 提言書を公表

### 患者体験調査の目的

(第3期がん対策推進基本計画中間評価)

- 国のがん対策の進捗評価

(患者の体験はがん対策の重要なアウトカム)

- 患者と家族の体験したがん医療の実情把握

⇒全国のがん患者を代表可能なサンプルに対する  
質問紙調査

# がん対策推進基本計画・中間指標

(令和元年6月28日がん対策推進協議会資料)

## 第3期がん対策推進基本計画中間評価指標一覧

第73回がん対策推進協議会 資料6  
令和元年6月28日 一部改定

指標	用いる調査
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実～がんを知り、がんを予防する～	
全体目標	
1001 がんの年齢調整死亡率	がん登録・統計
1002 がん種別の年齢調整死亡率の変化	がん登録・統計
1003 がんの年齢調整がん罹患率	がん登録・統計
1004 がん種別の年齢調整がん罹患率の変化	がん登録・統計
(1) がんの一次予防	
3. 暮らして安心して暮らせる社会の構築～がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現する～	
全体目標	
3001 自分らしい日常生活が送ることができていると感じるがん患者の割合	患者体験調査(成人問35-7)
3002 がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	患者体験調査(成人問12)
3003 家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	患者体験調査(成人問30-2、小児問40-2)
(1) 緩和ケアの推進	
① 緩和ケアの提供について	
3011 心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できたと感じている患者の割合	患者体験調査(成人問35-6)
3012 身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	患者体験調査(成人問36-2)
3013 精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	患者体験調査(成人問36-4)
3014 身体的・精神的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合	患者体験調査(成人問36-5)
3015 療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業
3016 療養生活の最終段階において、精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業
② 緩和ケア研修会について	
3017 緩和ケア研修修了者数(医師・医師以外)	がん等における新たな緩和ケア研修等事業
③ 普及啓発について	
3018 国民の緩和ケアに関する認識	世論調査
3019 国民の医療用大麻に関する認識	世論調査
(2) 相談支援及び情報提供	
① 相談支援について	
3021 がん診断～治療開始まで、病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合(再掲)	患者体験調査(成人問12)
3022 家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者の割合	患者体験調査(成人問30-2、小児問40-2)
3023 がん相談支援センター/相談支援センターについて知っているがん患者・家族の割合	患者体験調査(成人問31、小児問41)
3024 ピアサポートについて知っているがん患者の割合	患者体験調査(成人問32)
② 情報提供について	
3025 がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた者の割合	国立がん研究センターがん情報サービス
3026 がん情報サービスにおける点字資料、音声資料数、資料の更新数	国立がん研究センターがん情報サービス
(3) 社会連携に基づくがん対策・がん患者支援	
① 拠点病院等と地域との連携について	
3031 1拠点病院あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数	現況報告
3032 がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合(再掲)	患者体験調査(成人問13)
② 在宅緩和ケアについて	

<https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/000540228.pdf>より一部抜粋

## 回答者概要

### 平成30年度調査分

発送数	20,488
参加施設数	166施設
回収数	8,935(回収率43.6%)
報告対象	7,080

内訳

平均66.4歳

グループ	対象人数
A: 希少がん患者	797 (11.3%)
B: 若年がん患者	709 (10.0%)
C: 一般のがん患者	5,574 (78.7%)



# 「受けた医療への総合的評価」

(問23)総合的な評価結果(0-10点)



納得いく治療選択ができた人  
(問15-2)

79.0%

専門的な医療を受けられたと  
思う人  
(問20-8)

78.7%

これまで受けた治療に納得し  
ている人  
(問20-10)

77.3%

# 「医療側の説明・対応」

治療決定までに、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた人(問15-1)

75.0%

治療開始前に、担当医からセカンドオピニオンについて話があった人(問13)

34.9%

セカンドオピニオンについて尋ねた人  
・希少がん患者10.9%  
・若年がん患者16.3%  
・一般がん患者8.8%

治療開始前に、妊孕性への影響に関して医師から説明があった人(問16)

52.0%

40歳未満対象

治療開始前に就労の継続について医療スタッフから話があった人(問28)

39.5%

・診断時就労していた人対象

身体的つらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると思う人(問35-5)

46.5%

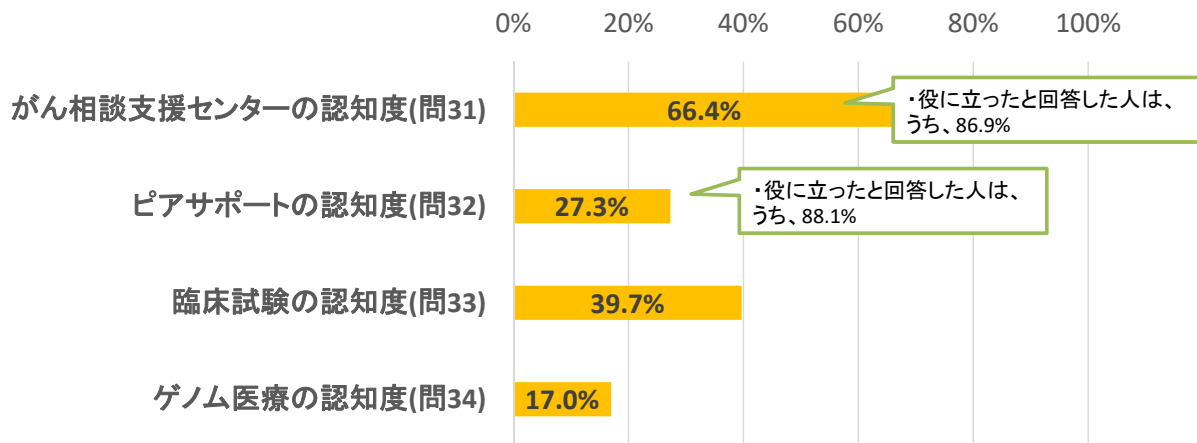
本人回答対象

心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると思う人(問35-6)

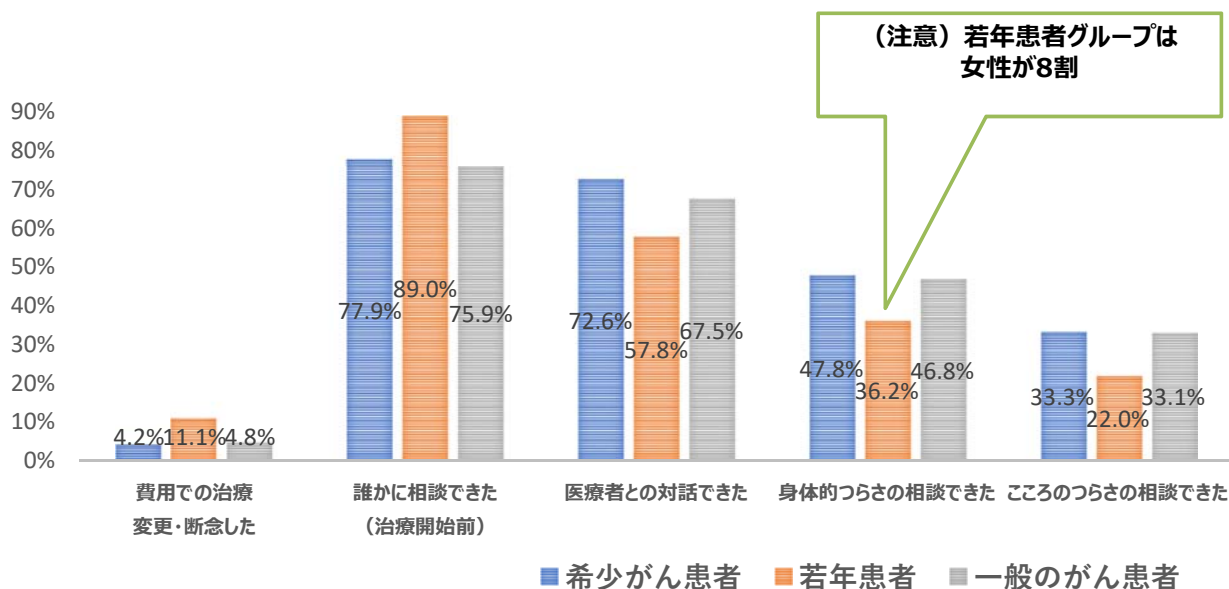
32.8%

本人回答対象

# 「各制度・用語の認知度」



# 「AYA世代の状況」ここでは19～39歳（小児は除く）



# ありがとうございました

患者体験調査ご協力いただいた施設の皆様には、この場を借りて心より感謝申し上げます。

追

## 3. 今後のお願いの予定

- 拠点病院の指定要件に関する意見調査
  - 厚労省研究班が実施、**全ての**拠点病院が対象  
がん診療連携拠点病院等の実態把握とがん医療提供体制における均てん化と集約化のバランスに関する研究（代表：若尾文彦）
  - 年度内に実施
- 石綿健康被害認定者の画像提供のお願い
  - 環境省委託事業
  - 患者の同意後、病院へ画像提供の依頼